

第18回 産業衛生技術専門研修会：岡山地元企業の労働衛生管理の実際

自動車工業の労働衛生管理

森尾 眞介

三菱自動車工業株式会社 水島製作所 健康管理センター

はじめに：現在、三菱自動車工業株式会社水島製作所（以下、MMC水島）には約4,000人の社員が働き、三菱自動車の軽四輪乗用車、普通乗用車、商用車、及び電気自動車を生産している。その年間生産台数は約23万台に及び、三菱自工（株）の年間国内生産台数の約半数を占めている。

健康診断：自動車製造は多種多様の工程から成り立っており、中には身体に有害な作業も存在する。一般健康診断に加え、(いわゆる)特殊健康診断（以下、特殊健診）も必要である。MMC水島では、エンジン及び車体の製造、塗装、及び完成後点検と言う一連の自動車製造過程を一箇所の製作所で行っており、種々の特殊健診が実施されている。代表的なものでは、エンジン製造での特化物健診（鉄の溶解）、ボデー用鉄板製造での騒音健診（プレス機械）、車体製造でのじん肺健診（溶接）、組立での振動・引金工具健診（部品締付け）、塗装での有機溶剤健診（塗装）、及び完成後試験での騒音健診（エンジン音検査）などがある。また、聞いてなるほどと思うのは、車体製造での電離放射線健診（溶接部分の密着性検査）、部品製造でのレーザー線健診（部品への刻印）、及び暑熱・寒冷場所業務の健診（暑熱・寒冷環境での車体検査）がある。

衛生・健康教育：毎年MMC水島では、数十人の新入社員（技能職）が入って来る。入社後3ヶ月間は新入社員研修の期間である、自宅か社員寮からの通勤となる。この期間中に座学と実習により自動車製造の多種多様の工程、及び仲間コミュニケーションを学ぶ。研修末期、配属職場が決められ仮配属が行われる。例外を除いて、仮配属職場が配属職場となり、大多数の社員にとっての一生の職場となる。

新入社員への衛生・健康教育は健康管理センターが担当している。話す内容は、①規則的な食事、睡眠、排便習慣、②精神的ストレス、③腰痛予防などである。しかし、一年後、健診の機会を捉え新入時の衛生・健康教育内容を聞いてみても、憶えている者は誰もいない。また、昇進時には昇進者研修があり衛生・健康教育も含まれている。これも憶えている者は僅かである。

健康相談・面接指導：社員の記憶に残るのは、やはり個人的な健康相談・面接指導を受けた内容であろう。健康相談・面接指導を受ける機会は、健診結果が悪かった時の他、自らまたは周囲が心身の不調に気づいた時、残業時間が極めて長かった時、長期間

の病気休業後に出勤し始めた時がある。この健康相談・面接指導は健康管理センターの医療職社員（産業医、保健師、看護師、嘱託精神科医）によって行われている。また、必要な際には継続して行われる。健診時に社員と話しをすると、保健師や看護師に厳しく面接指導を受けたことを説明する社員も多い。全員への一般的な知識普及は集団教育しかないが、個人的な健康相談・面接指導に比べると印象は薄くなってしまう。両者の長所を生かした衛生管理を目指しているが、なかなか満足できるものではない。まとめ：以上述べたように、MMC水島の健康管理センターでは、第一に、ノウハウが確立している一般健診及び特殊健診を核とし、その結果に基づく面接指導、第二に、社員からの精神面を含む健康相談・面接指導（過重労働対策を含む）、第三に、時期や集団を特定した衛生・健康教育を主体として、社員に対する労働衛生管理を行っている。自動車製造業は国内外競争に曝されており、3K（危険、汚い、きつい）に加え、新しい技術や製品の導入（作業環境管理の変化）、及び生産量の急激な変化（作業管理の変化）が避けられない職場である。今後とも、私たちは新しい知識や技術の習得に努めて行かねばならない。